



第12期
(2023年4月～2024年3月)

Annual report

ミッション

ボランティアを求める人とボランティアをつなげる

活動方針

- ▶ 日本のボランティアをもっとカジュアルに
- ▶ 日本のボランティア人口を増やす
- ▶ 日本のボランティアの裾野を広げる

事業内容

ボランティア情報事業

東日本大震災のボランティア情報の収集と配信に加え、震災関連以外のボランティア情報の収集及び配信を実施します。収集したボランティア情報はデータベースとしてAPIで配信しています。配信した情報はYahoo!ボランティアなどのサイトに同時に表示されます。

ボランティアコーディネート事業

イベントなどでボランティア募集をする際、企画から募集、当日のコーディネートまで実施します。集まったボランティアのコミュニティ構築のお手伝いも実施します。

ボランティア促進・啓発事業

日本のボランティア人口を増やすやめに、またボランティア活動をもっとカジュアルにするための普及活動や啓発活動を行います。

ボランティア情報数

年間：114件

- ▶ 通常のボランティア：63件
- ▶ 2023年九州北部豪雨など：23件
- ▶ 能登半島地震：28件

ボランティアコーディネート数

年間：1,034人

- ▶ GO OUT JAMBOREE 2023：165人
- ▶ GO OUT CAMP 猪苗代 vol.9：62人
- ▶ THE CAMP BOOK 2023：80人
- ▶ SATANIC CARNIVAL 2023：20人
- ▶ アースセレブレーション2023：8人
- ▶ NEW ACOUSTIC CAMP 2023：145人
- ▶ GO OUT CAMP 関西 vol.9：56人
- ▶ GO OUT CAMP vol.19：145人
- ▶ EPOSHS 2023：32人
- ▶ 軽井沢ラーニングフェス 2023：32人
- ▶ LIVE AZUMA 2023：120人
- ▶ TOKYO TOWER CANDLE DAYS：3人
- ▶ DANNER CAMP 2023：12人
- ▶ 山形国際ドキュメンタリー映画祭2023：64人
- ▶ GO OUT CAMP 冬：90人



Yahoo!ボランティアへのボランティア情報の提供を継続しつつ、今年度からはYahoo!ボランティア経由で連携した、かわさき市民活動センターのボランティア募集情報の掲載も実施しています。



ボランティア募集情報データベースの改修に取り掛かり、Yahoo!ボランティアへの情報掲載項目数が増えました。2024年度も継続してデータベース改修を行い、画像の複数掲載や動画の貼り付けなど現在のインターネット事情に適したデータベースにしていけます。

2023年は各地で災害が発生し、多くのボランティアが復旧・復興に参加しました。

- ・ 2023年九州北部豪雨など（2023年6月）
- ・ 能登半島地震（2024年1月）

能登半島地震でのボランティアインフォの活動



2024年1月1日に石川県能登半島で発生した地震で石川県を中心に多くの被害が出ました。ボランティアインフォでは1月3日より能登半島地震関連のボランティア募集情報の収集と発信を行ってきました。

道路が寸断され交通状況が悪いことと、ライフラインの復旧まで時間がかかることから、初期フェーズではボランティアの参加は地元の方のみとなるなど、限定的な募集となりました。

2024年のゴールデンウィークや夏休みに多くの人がボランティア活動に参加できるように支援団体と連携していきます。

掲載した能登半島地震のボランティア募集情報：26団体（災害ボランティアセンター含む）

イベントやフェスの開催はコロナ禍以前の状態に戻り、ボランティアコーディネートを各地で実施した1年となりました。今まで実施してきたフェスなどに加えて、お笑い芸人のTKOさんのコントライブ（47箇所）のボランティア募集サポートなども実施しました。



ボランティアコーディネート以外の制作現場

ボランティアコーディネートで培ったノウハウを元に、ボランティアコーディネート以外の制作や装飾のサポートスタッフとしても現場に多く入りました。

- ・制作：アコチルキャンプ（運営本部）、TOKYO TOWER CANDLE DAYS（出店管理）、DANNER CAMP 23（出店管理）など
- ・装飾：GREEN ROOM FES 24、中村俊輔引退試合、SWEET LOVE SHOWER など

コロナ禍で収益の柱であるボランティアコーディネート事業からの収益がほぼなくなってしまったことをうけ、収益の柱の分散化に必要性を感じており、既存事業とシナジーが生まれるような形での事業を模索してきました。

事業再構築補助金を活用し、キッチンカーを作成し、以下の事業を展開しました。

- ・キッチンカーレンタル：コーディネート現場に乗って行き
キッチンカーをレンタル
- ・スタッフケータリング：スタッフやボランティアの
ケータリングを実施
- ・飲食出店：イベントの飲食ブースとして出店する



2023年度の実績

- ・ぱん屋つつー(2024年2月OPEN)：北村個人事業主でのパン屋へのキッチンカー貸し出し
- ・SOTE 311 Fukushima2024(2024年3月開催)：飲食出店として参加
- ・Creema YAMABIKO FES 2024 (2024年3月開催)：アーティストケータリングを実施

今後の展開

フェスやイベントへのレンタルや出店稼働がない時はパン屋への貸し出しを行い、なるべく稼働率を高く維持していく。

移動にコストがかかってしまうため、横須賀のイベントなどをメインに出店していく方針。

阪神大震災の年が日本における「災害ボランティア元年」とよく言われることがあるが、日本は東日本大震災や熊本地震などの大きな災害を経験し、災害が起こるとボランティアとして多くの人が参加して復旧や復興活動を行うことが当たり前のようになったと、私自身思っていた。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、東日本大震災や熊本地震クラスの被害を出したにもかかわらず、初期フェーズでは交通やライフラインが復旧していないことなどが理由で、ボランティアがほぼ参加することができなかった。そして1月、2月、3月と時間がたっても、たくさんのボランティアが活躍しているというニュースを耳にすることはなかった。

ボランティアとはボランタスを語源とする自由意志での活動を指す。

誰かに指示されるわけでもなく、命令されるわけでもないが、「何か自分にできることはないか」という想いで現地につけ、その場で必要とされていることを一緒に行うのが災害ボランティアが始まった頃の形だったに違いない。

しかし今の災害ボランティアはしっかりと情報収集をして、事前に予約をして、指定される持ち物を持参して現地に向かい、被災者の方の迷惑にならないように自己完結型でひっそりと車中泊をする。そんな形になってしまった。そして「今はボランティアに来ないで」と言われれば、行かずにその時が来るまで待っている。

コロナ禍以降、「何か自分にできることはないか」という想いがあるにも関わらず、行動するまでのプロセスが増えてしまったように思う。

ボランティア情報を発信し、現地は今来ないでくれと言っているという情報を出している立場ではあるが、今回の能登半島地震では、ボランティアとはそういったものだったのかと改めて考えさせられた。

1つの明確な「答え」はないが、あの時こうやっていればという後悔だけはしないよう、ボランティアインフォとしても、個人としても、今できることをしっかりと考え、行動していきたいと思う。